

盛況のうちに開場記念祭終える。エアレーション本格化し、シーズン入り間近・・・。

〆サクラに雨、とはやや風情に欠けたが、56回目を迎えた開場記念祭コンペが12,13日の両日、開催された。満開近いサクラには生憎の空模様だったが、両日とも満杯近い参加となり、盛大に開場記念日を祝った。

雪と強風にたたられた3月は月例会まで中止となり、南コース茶屋に、強風で倒れた隣地の松の枝がかかり被害を出した。月例杯の中止を含め、3月のクローズによるキャンセルは600人に達したが、営業努力で昨年並みの入場者を確保出来たという。

4月に入り、フェアウェイも日々、青味を増し、それぞれのコースのグリーン上では連日、エアレーション作業が進められている。5月の連休明けまでには、砂入れも終える予定で、コース整備のピッチも上がっている。

6月12日には39回栃木県アマチュアゴルフ選手権のブロック予選が今シーズン最初の公式大会として開かれる。この大会までには、砂が気にならないよう仕上げたいと力を入れている。





45歳以上の初心者が対象。一日ゴルフスクール・ワンデーズを開催(5月19日)。

5月はJGA(日本ゴルフ協会)がゴルフ振興に力を入れるゴルフ月間で、各県のゴルフ場協議会などと共催で、一日ゴルフスクールを開催する。

このスクールはゴルフを「始める」「復帰する」「継続する」、そしてゴルフを通じてコミュニティ作りのきっかけしてもらうため、プロのティーチングコーチを派遣して開講する。

塩原カントリークラブでは、5月19日(月)に開かれる。参加資格は45歳以上で、受講料1000円がいる。塩カンでは12時50分集合、自己紹介、講義、ゴルフ練習、コースプレーなどを行い4時10分に終了する。募集人員は先着10人。問い合わせはフロントへ。

～昨年 9 月開催時の様子～



レディースティー(南2番)、ピンクティー(北4番)を改良。

女性メンバーなどから改良を求める声が出ていた、ティーグラウンド2か所について完了した。フェアウェーとの区画が判然としないと指摘された南2番のレディースティーの芝を張り替え、傾斜地にあって打ちにくいと不評だった北4番のピンクティーについては、構造自体を水平に改造して芝を張り替えた。両ティーの張り変えに使った芝は、練習場の左サイド部分を切り取り、両ティーグラウンドのほかに、グリーン周辺の裸地の張替えにも使用されたため、当面、練習場隅の裸地が増えた格好になった。





【雑草博士のグリーン談義】

前宇都宮大学教授 小笠原 勝

スズメノカタビラの繁殖戦略

踏圧と刈り込みストレスの加わるグリーンは植物にとって決して好ましい環境ではありませんが、そんなグリーンにもスズメノカタビラというイネ科の雑草が生育していることを前回のグリーン談義でお話ししました。地球上に生育する約 20 万種の高等植物のうち、グリーンで旺盛な生育を示す植物はスズメノカタビラを含めわずか数種類に過ぎません。まさに、スズメノカタビラは選ばれし植物なのかも知れません。今回は、そのスズメノカタビラがどのような方法で増えるのかをお話しします。

まず、植物の繁殖方法を見ていきましょう。繁殖方法は種子による種子繁殖と地下茎や匍匐茎（ほふくけい）などによる栄養繁殖に大別されます。形質の異なる個体間の交雑によってできた種子による繁殖は多様性と密接に関わっていますし、親と同じ形質の個体（クローン）が増える栄養繁殖は特定の形質の維持に有効です。種子繁殖も栄養繁殖もそれぞれメリットがあり、繁殖方法は植物の種類によって異なります。種子繁殖だけの植物もあれば種子繁殖と栄養繁殖の両方で増える植物もありますが、スズメノカタビラは細かく分けると何と 5 種類もの方法で増えることが知られています。すなわち、「自家受粉による種子繁殖」、「他家受粉による種子繁殖」、「花序節による栄養繁殖」、「匍匐茎による栄養繁殖」、「無融合生殖」の 5 種類の方法です。

次に、それぞれの繁殖方法について簡単に説明します。スズメノカタビラの穂を観察すると、米粒くらいの小さな塊からできていることが分かります。この小さな塊は小穂と呼ばれるもので、3 個から 5 個の小花からできています。小穂の先端には雌蕊（めしべ）だけから成る雌性小花が付いており、その下には雌蕊と雄蕊（おしべ）から成る両性小花が 2 から 3 個付いています。

最初に、先端の雌性小花が開花して、外から飛んでくる花粉と受粉します。これが他家受粉です。驚くべきことに、雌性小花が開花している間は、その下に位置している両性小花は閉じたままです。雌性小花の受粉が終わると、次に第 2 小花が開花受粉し、さらに第 3 小花、第 4 小花の順で開花受粉が続きます。第 2 小花以降の受粉は自家受粉です。スズメノカタビラは一つの小穂の中で、自家受粉と他家受粉の両方を行なっています。他家受粉によって他の個体から自分と異なる遺伝子をもって多様性を獲得するとともに、自家受粉によって自分の良いところを残そうとしているかも知れません。

次に栄養繁殖に移ります。イネ科植物は「だるま落とし」のように、たくさんの節が積み重なった構造をしています。各節には葉と根の原基が付いており、地際では節から葉と根が出てきますが、上位節ほど出なくなります。節から葉や根が出るかどうかは植物ホルモンによって制御されており、頂芽優勢と呼ばれています。スズメノカタビラの穂軸にも花序節と呼ばれる節があり、穂が植物体に付いた状態であれば、節から葉や根が出ることはありません。しかし、穂が刈り取られると頂芽優勢（ちょうがゆうせい）が打破されて、断片化した節から葉や根が出て個体が再生します。これが花序節による栄養繁殖です。



次に匍匐茎による栄養繁殖です。これまで、ゴルフ場に生育するスズメノカタビラは一年生と考えられていましたが、ほとんどの個体は匍匐茎を有する多年生のツルスズメノカタビラという変種であることが明らかになっています。

匍匐茎を発達させた個体は日当たり良好な場所よりも、林帯周辺などの日陰で見かけることができます。当然のように刈り込みによって断片化した匍匐茎からも個体が再生します。そして最後はアポミクシスと呼ばれる雄蕊と雌蕊の受粉を伴わない「無融合生殖」です。ヤマイモの「むかご」も無融合生殖の一種ですが、スズメノカタビラの無融合生殖はこれとは異なり、卵細胞由来のものと考えられています。

今回は、少し専門的な話になってしまいましたが、スズメノカタビラがさまざまな方法で増えることとお話ししました。たかが雑草と侮ってはいけません。雑草はあの手この手を使って、生育地を拡大しているのです。



スズメノカタビラ(Wikipedia より)



【中里鉄也の目・Q&A】

Q：スタートホール(1番)のドライバーが、いつも右に飛んでしまいます。

常に真ん中とは言いませんが、フェアウェーをはずさずに打つにはどうすればいいですか？

A：スタートでOBや林に入れてしまうと、その後のプレーにも影響が出てしまうので、フェアウェイキープは重要ですね。いくつか原因と対策が考えられますので、説明します！

原因 ●スイング軌道とフェースコントロール

アウトサイドインの軌道を修正し、インサイドアウトまたはスクエアな軌道でスイングすることを意識します。また、インパクトでフェースが開かないように、手首のローテーションや体の回転を意識したスイングを身につけます。

●力まないスイングとリズム

スタートホールという緊張感から力みがちですが、スムーズなリズムでスイングすることを心がけましょう。力みはスイングを不安定にし、ミート率の低下やスライスの原因になります。

対策 ●ボールの位置

ドライバーの場合、一般的に左足かかと線上、またはその少し内側に置くのが基本です。ボールが右寄りになっていると、フェースが開いて当たりやすくなります。

●スタンスの向き

目標に対してスクエアに構えているか確認しましょう。右を向いていると、アウトサイドインの軌道になりやすくなります。不安な場合は、目標とボールを結んだ線に対して、クラブフェースを直角に合わせ、そのフェースの向きに合わせてスタンスを取るようにしましょう。

●アドレス

アドレスで肩のラインが目標に対して左を向いていると、アウトサイドインの軌道になりやすいです。肩のラインも目標に対してスクエアになるように意識しましょう

●インサイドアウト軌道を意識する

ダウンスイングで、クラブが体の内側から出てくるイメージを持つことで、アウトサイドインの軌道を修正します。ボールの内側(体に近い側)から払い出すようなイメージを持つと良いでしょう。

●体の回転を使う

手打ちにならないように、下半身リードで体の回転を使ったスイングを意識しましょう。体の回転を使うことで、スイングが安定し、フェースの開閉をコントロールしやすくなります。

●力まない

スタートホールは緊張しやすいですが、深呼吸をしてリラックスし、普段の練習と同じようにスイングすることを心がけましょう。「飛ばそう」という意識は力みに繋がり、スライスを助長する可能性があります。

●ティーの高さを調整する

ティーが高すぎると、アッパーブローになりすぎてフェースが開いて当たりやすくなります。ボールの半分からヘッドが少し出るくらいの高さが目安です。

最後に！

打点を見れているか、そしてアドレスの向きスイング軌道の方向クラブフェイスの向き(構えと打点)が正しいのかが重要です！



栃木県女子クラブ対抗競技大会 4月22日に開催。

2025年度の栃木県女子クラブ対抗競技大会が4月22日(火)に、宇都宮ガーデンゴルフクラブにて、芳賀CCが238で連覇を狙う鹿沼CC・Aを1打かわし初優勝を飾った。

1チーム最大4人編成で上位3人の合計スコアで争われた。曇り、微風の絶好のコンディションの中、20ゴルフ場26チーム、99人が出場し熱戦を展開した。

塩カンには26チーム中12位、個人では加藤里奈選手が75ストロークでBクラスバスコロに輝いた。

～2025年4月23日 下野新聞～



編集後記

1947年から1949年までのわずか3年間に、奇跡のように人口の山が生まれた。いわゆる「団塊の世代」である。高度経済成長という坂を駆け上がる原動力になり、75歳超え高齢世代となった。物価高、国際情勢の不安、先行き不透明な社会で、ともすれば「古い」は疎外の対象にもなる。しかし、その背中には、未来の世代への道しるべとなる光が宿っている。日本ゴルフ協会が、ゴルフをコミュニティ作りのきっかけにと唱える「ゴルフ月間」の5月を前に、そんな思いを強くする。

井上安正